

会見内容

午後1時30分 開始

【広報広聴課長】 皆さん、お待たせいたしました。

定刻の時間となりましたので、9月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

最初に、お知らせを2つ申し上げます。

1つ目は、敦賀市記者クラブの幹事社につきましては今月から向こう3カ月、産経新聞社と福井放送に交代いたしましたこととお知らせいたします。

次に、報道関係者に異動がございました。それによりまして本日初めてこの会見に参加されます方をご紹介します。読売新聞敦賀支局長の富浪様でございます。富浪様、一言ごあいさつをお願いいたします。

【記者】 初めてましてというか、お久しぶりですというほうがいいかもしれません。8年ぶりにこちらに戻ってまいりました読売新聞の富浪と申します。こちらにお邪魔していたのは98年から2000年の間でしたけれども、その間もいろいろ皆さんと仲よくしていただきまして、ひょんなことからこちらにまた形だけですけども支局長として戻って来ることになりましたので、今後ともよろしくをお願いいたします。

【広報広聴課長】 ありがとうございます。

続きまして、本日初めて会見の方もおられますので、マイクの使用方法等、簡単に説明させていただきます。発言の場合は挙手をお願いいたします。ご指名をいたしましたなら、前のマイクの下に銀色のボタンがあります。これを軽く触れていただきますとスイッチが入ります。それから発言をしていただき、発言が終わりましたなら、またボタンに触れてスイッチを切っていただきたいと思っております。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

本日の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長のあいさつ、その後、9月補正予算案を初めとする2項目の事業発表を行います。質問は、最初にこの事業発表項目の2つについてお願いいたしたいと思っております。その質疑終了の後に3番目のフリー質疑へと進行したいと思っております。

なお、終了は14時30分を予定しておりますので、ご協力よろしくお願い申し上げます。

それでは市長、よろしくお願い申し上げます。

【市長】 ようやく涼しくなってきたかなと思っておりましたら、また昨日あたりから大変暑い天気に戻ってまいったところでございます。大変今日このごろ天気が心配されるわけでありましてけれども、間もなく敦賀まつりも2日から、明日から開催ということでありますが、予報のほうでは穏やかな天気であるというようなことを聞いておまして、予報も聞きながら一安心しているところでございます。

もう9月に入りました。またいろいろと私どもも後半に向かって頑張っていきたい、このように思っております。

それでは座って説明をさせていただきます。

まず、9月補正予算案につきまして説明をさせていただきたいというふうに存じます。

今回の補正予算につきましては、国、県補助金の内示決定に伴うものなど、予算措置が必要なものを計上いたしましたところであります。主な事業といたしましては、まず学校施設等の耐震診断委託料と防災情報受信端末機設置についての予算を計上いたしました。

この耐震診断委託料であります。これまで本市は計画的に小中学校校舎、体育館の大規模改造にあわせまして耐震補強を実施してまいりましたが、中国・四川省の地震による学校施設倒壊の大惨事などを教訓に、早急な対応が必要と判断し、耐震診断が未実施の全15棟の耐震診断委託料を計上いたしました。また、災害時の避難施設であります市民福祉会館、少年自然の家、武道館の耐震診断委託料についても計上し、今後この結果に基づき、学校施設等の耐震化を進めてまいりたいと考えております。

次に、防災情報受信端末機設置についてであります。これまでのケーブルテレビによる緊急告知ブザーにかわる通報手段として、今回試験的に緊急地震速報を初めとする防災情報の受信端末を公共施設などに設置することとし、保育園、小中学校等60の施設の設備費を計上いたしました。

これらの防災対策以外の予算につきましては、金ヶ崎緑地の突風被害の対策費として緑

地施設の復旧工事費など、また原油価格高騰等の対策といたしまして中小企業に対して新たに利子補給を行うための経費、今後の中池見保全、整備に向けての基本計画策定業務委託料、昨年、企業立地促進要綱に基づき指定をしました市内の既存企業の2社の工場増設等に対する企業立地補助金、日本海横断航路の社会実験に向けての荷主への事前セミナーや中国、ロシアへのポートセールスの経費、敦賀ムゼウムの展示資料充実のためアメリカ在住の命のビザ所有者との対談などの経費を計上いたしました。

以上が今回補正予算の主なものでございます。

続きまして、敦賀さくらの里実行委員会によりますさくらのオーナー募集及び第1回さくらのオーナー会の開催についてであります。

さくらの里実行委員会によりますさくらのオーナー募集につきまして、これは前もお話ししましたが、愛着の持てる郷土の創造を目指して、実行委員会と市と協働で総合運動公園のところに桜の名所をつくろうということで、桜の苗木1,000本の植樹に取り組んでいるところでございます。今年度も約300本の桜の苗木の植樹を計画しています。昨年同様、広く桜苗木のオーナーの募集をいたしたい、このように思っております。思い出づくりといたしまして、またご結婚されたりご出産をされたりいろんなお祝い、記念があるわけでございますけれども、その記念日に記念としてどしどし応募をしていただきたい、このように存じております。

私のほうからは以上であります。

【広報広聴課長】 ありがとうございます。それでは、ただいま市長のほうから発表いたしました2項目についてご質問を受けたいと思います。最初に、幹事社さん、よろしくお願ひいたします。

【記者】 補正予算の中の命のビザに関してなんですけれども、市長がアメリカのビザ所有者の方と直接面談されて話をされるということなんですか。その詳細、今分かりますか。

【市長】 日程的なことでしょうか。

【記者】 日程及びその所有者と、あと具体的にどういった会話というかインタビューをされるのかということをお願いします。

【市長】 この方はサムエル・マンスキーさんという方でございまして、日程調整で大体日も取れたんですけれども、11月の中旬を予定いたしております。この方は今もう88歳になられますし、住所はボストンのほうに住んでおられるわけでございます。この方はご承知のとおり1939年12月でありますけれども、ポーランドからリトアニアへ渡り、そしてビザ受給の後に敦賀を経由して、そしてアメリカへ到着されたことでございます。いろんなユダヤ人関係の役職もこなしておられた方でありまして、現在もいろいろな役をこなしている元気な方でございます。

対談の内容といたしましては、命のビザを手にしたときの状況でありますとか心境、また、そのときの杉原千畝さんの様子等。この方は生き証人でございますので、そういうお話。また、シベリア鉄道での船内での出来事。また敦賀港へ上陸したときの印象でありますとか心境、またいろんな出来事等。そしてまた、その後の経路、お暮らしの状況、また家族の皆さん方の状況等をじかにお話をお聞きしてまいりたいなというふうに思っていますし、また、それを映像等で残させていただいて、ムゼウムのほうでまた流させていただけたらなというふうに思っておるところでございます。

以上です。

【記者】 このサムエルさんは、男性ですか、女性ですか。

【市長】 男性の方です。

【記者】 生年月日とかはわかりますか。

【市長】 88歳で、誕生日までちょっと……。

また詳しいことは。

【広報広聴課長】 では引き続きまして、ほかの方々の質問を受けたいと思います。

【記者】 先ほどおっしゃっていた防災情報の無線のことなんですけれども、防災行政無線、J-ALERTとは全く別のものなんでしょうか。

【市長】 防災受信端末機の設置工事費についてでありますか。

【市民生活部長】 私のほうからお答えをいたします。

J-ALERTとは違います。私ども独自のシステムというふうを考えております。

【記者】 敦賀市が独自に開発したもので、特徴は何かございますでしょうか。

【市民生活部長】 私どもの今回、ハーバーステーション、敦賀FMさんと、それからRCNのケーブルを利用したシステムでございます。それに地震緊急速報を載せたいということでございます。

【記者】 主に流す情報は地震で、突風とかそういった情報はどうでしょうか。

【市民生活部長】 防災計画に基づいた情報提供というふうを考えておりますし、気象情報については通常の注意報、警報というのがございますので、今でも9チャンネル、突風であるとかそういったものについて必要であると判断した場合は情報を流しておりますので、そういうものも流すかどうか今後ちょっと検討はさせていただきますけれども、今決まっておりますのは地震緊急速報を流したい、このように思っております。

【記者】 震度幾つ以上とかに限らずということですよ。

【市民生活部長】 一応震度3以上か震度4以上か、これも実は今回、まず60施設について設置いたしまして、受ける側との関係もございますので協議をしながら進めたいと思っております。震度3か震度4、どちらか以上になると思います。

【記者】 設置はいつごろ。さっきおっしゃったかもしれないんですけども。

【市民生活部長】 議会のご承認をいただきましてからでございますから、10月に入札を行いまして、年内にはある程度整備は進めるのではないかなと思っておりますが、正式に送信できるような状態、当然テストランも必要でございますから、年が変わってからかなというふうに思っております。

【記者】 金ヶ崎緑地の突風被害対策費なんですけれども、藤棚の修繕工事以外に何か考えられる工事というのはどういったものがあるのでしょうか。

【市長】 今回の中で犠牲になられた方もいらっしゃるわけございまして、特にこの事故でなくなられたご遺族の方に対しまして、敦賀市の市民総合災害補償規程というのがございます。それによりましてお見舞金として200万円は専決処分により支出をさせていただきたい、このように思っております。その他、いろんなご遺族の方、当時の送迎であったりとか、そういうものを含めてであります。

【記者】 中池見の管理運営費は減額になっているんですけども、何ですか。

【市民生活部長】 今回、国からの補助金をいただくものですから、その分で予算上整理をしたというふうに考えていただければ結構だと思います。

【記者】 減った分は国からの補助金が入ったからということですか。

【市民生活部長】 そのように解釈していただければ結構でございます。

【記者】 国からの補助金というのは、この760万。

【市民生活部長】 そういうことでございます。

【記者】 全部、国からの補助金なんですね。この減額した分は。

【市民生活部長】 そうです。

【記者】 社会実験なんですけれども、補正を計上しているということは何か具体的に計画が決まったんですか。いつぐらいから始めるとか、あるいは船もいつぐらいから始めるとか、そういう何か具体的なものが決まったのでしょうか。

【市長】 今回のことにつきましては、ポートセールスというのが主な目標でございまして、やはり私どもの背後圏といいますか関西、中京、滋賀の荷主の方とか物流事業者に、敦賀市は非常に距離的にも近くて便利であると。なかなか皆さん、聞いたことはあるし地図を見ても近そうだなとは思っているんですけども、実際に来ると本当にもっと近いねというようなことを言われる方もたくさんいらっしゃいますから、そういう方々にバスで来てもらって実感していただくことでありますとか、また中国の東北部、また極東ロシアの現状、それとマーケット情報を提供させていただいて、対岸諸国に対する理解を深めてもらおうということ。それと、今私どもが進めております日本海横断航路開設事業への参加協力を求めて、荷主の方々のニーズを把握することが今回のセミナーの目的でありますし、またそういう調査ということで訪問させていただきたい。

社会実験というのは、ご承知のとおり日本海横断航路開設事業の一環としてというステップの一つのものでございまして、そういう意味ではぜひこういうことを実現したいというふうに私ども今願っておりますけれども、社会実験と今回のポートセールスなりセミナーというのは直接、この中にそういう社会実験の予算ということは入ってはおりません。

【記者】 じゃ社会実験そのものについては、まだやっぱり未定という。

【市長】 現在、確実な日程は決まっております。それを何とか、遅れているものから何とか実施をしたいということで今も十分努力はいたしておりますけれども、おっしゃるとおり今、その社会実験が何月何日に決まるといことはありません。

【記者】 遅れている原因は何かありますか。

【市長】 なかなかこれは日本国内のみならず、中国とロシアという国、3カ国が関係している関係で、それぞれの外務省関係、いろんなところの多くのことが関連いたしますので、そのあたりの複雑さが少し要因しているのではなかろうかなと思っております。

【記者】 細かい確認なんですけれども、1点、金ヶ崎緑地突風被害対策費の中には、この間の専決処分の見舞金200万、これは全額、一般会計補正だったと思うんですけれども、今回の中には入っていないと考えてよろしいんですか。

【市長】 あれは専決で200万させていただきましたから。今回のやつ、細かく言いますか、中身。

まず委託料として緑地、ガラスの破片が非常に飛んでいたということで、花火大会等にもある程度あの場所を使用しましたので、ガラス破片等のきれいな清掃を実は行いまして、この委託料が約9万5,000円。それと使用料ということで、遺族の方々がちょうど当日お越しになられて宿泊等されましたので、その予算等で18万円ほどかかっております。それと遺族の方々の送迎の車、タクシー等の代金も少しかかっております。これは微々たるやつでございますけれども。それと今度、愛知のほうに遺族の皆さん方をお送りしたときの中型バスを借り上げをいたしておりますので、その料金。それと、ご遺体を送り届けたということで、そういうものの経費もかかっております。それと、先ほど出ましたけれども工事の請負。これは藤棚等の修理に約15万ほどかかるということでありまして、一括しますと約230万弱ということになります。

【記者】 あともう1点、防災情報の受信端末の設置工事費の565万、これは全部、市の独自財源ということで、国の補助事業とか何かの補助にかかってくるようなことではないと考えてよろしいんでしょうか。

【市民生活部長】 全額、私どもの予算ということでございます。補助ではございません。

【記者】 さっきの社会実験に絡んでなんですけれども、荷主さんとか中国、ロシアにも行かれるということなんですけれども、この前聞いていたのは敦賀の優位性というか、そういうものに関するアピールのための資料をつくって売り込むんだということを聞いていたんですが、これがその機会になるということではよろしいんですか。その資料はもうできていて、それを示しながらアピールするとか、そういうことなんでしょうか。

【産業経済部長】 電源地域振興センター委託事業で、9月をめどに今つくっていただいております。その資料を持ちまして10月以降、ロシア、中国のポートセールスをやる予定でございます。その後、日本の企業向けにセミナーを開催して、日本の企業の協力会社を見つけていく。その中で、対象企業が見つかり次第、これから社会実験等を目指していきたいというものでございます。

【記者】 じゃ、そのセミナーの開催時期というのはいつごろなんですか。11月以降。

【産業経済部長】 今のところ12月を予定しています。

【広報広聴課長】 ほかにございせんか。発表項目、2項目ですが、この件につきまして質問はないでしょうか。——ないようですので、次第の次に移りたいと思います。

3番目の質疑応答、これはフリーの質問で結構でございます。最初に、幹事社のほうから、これもまたよろしく願います。

【記者】 ポートセールスにも多少関係すると思うんですけれども、国際ターミナルの運行が9月13日から一部ですけれども始まりますが、それに関して具体的な利用の見込みとか、そういっためどは立っているのでしょうか。13日の利用開始に合わせて何らかの、最

初から荷物が来るとかそういったことはあるのでしょうか。

【市長】 おかげさまでようやく一部供用開始することができたわけでございまして、今、国土交通省、国、県等と式典も行って、材木等の取り扱いがそのところで始まるということでございます。荷物的には、そこが使えるようになったからどんどん増えていくのかということでもありますけれども、先ほど言いましたポートセールスをしっかり行いながら、私どもの港にはこれだけのすばらしい埠頭も完成したということを含めてPRをしていきたいなというふうに思っているところでございまして。

ただ、総合的な完成があと2年ほどかかりますので、現在あそこに大きなコンテナ船が入っても、まだガントリークレーンもできていないという状況でありますので、おいおいそういうものの整備を急いでいただくように運動展開をしながら、総合的には2年後に完成するということを含めてPRをしっかりやっていきたいなと思っています。

【記者】 もう1点、突風事故に関連してなんですけれども、敦賀まつりが明日から始まりますけれども、そのための前回の花火大会と同様、防災、気象情報のチェックとか、そうした具体的な対策は講じておられるんですか。

【市長】 いろんな警備体制につきましては、従来よりも強化をさせていただきながら、突風に限らず多くの皆さん方が集まりますと、やはりいろんな人的災害も起こりやすい状況でありますので、そういうものに十分配慮をしていきたいなというふうに思っております。それと、気象情報的には、やはりしっかりとした情報をキャッチして。

ただ今回のような状況というのは、非常に気象庁としても把握しにくいところであるんですけれども、私どもいろんな話を聞くと、やはり真っ黒い雲があって、ちょっとおかしいな、おかしいぞと。目視したときに皆さんが、この雲の様子はおかしいなということがやはり感じた方がたくさんいらっしゃるということでございましたので。

今日も庁議でお話ししたんですけれども、一人一人といいますか、当然主催する側はそういうことに十分に気象状況を把握して、これは変だぞというときには少し早目に、今までは余りなかったと思うんですけれども、雲の様子がおかしいですし注意報も出ていますので安全なところに避難をしてくださいというような、そういう対策はしっかり取ろうかなというふうに思っております。

やはり人間というのは最後は自分の目で見た状況というのをしっかりと把握しなくてはならぬ。昔は、よく漁師さんなんかは大概、天気を当てるんですね。空を見て、もうじき雨が降るよとか、明日は晴れるというのを。今でも夕焼けが出ると明日は晴れるという状況で、私どもも小さい時分から経験してきたんですけれども、近々の例では30日の夜ちよろちよろと降ったんですが、実は夕焼けが出たんです、最後。昨日、天気予報は実は曇りマークと傘マークも出ていたんですけれども、現実はんかん照りに晴れておりましたから。だからそういうもので人間が目で見えて判断したり、また昔の人がいろいろ考えたことというのは本当的的確であるのかなということも考えますので、そういうものも取り入れた形で情報をしっかりとつかみ、早目に対応ができるように、対応をするように努力していきたいと思っています。

【記者】 最後に1点、事故の原因について、国との共同的な調査を要望したいというふうに前回の会見でおっしゃっていたと思うんですが、それに関して具体的な動きは。

【市長】 具体的に文部科学省のそういう研究班のところに訪問させていただいて事情をお話しし、原因究明等について協力をいただけんかということでお話をしてきたんですけれども、なかなかどの担当部署でやっていいか分からんというようなこともございまして、まだ具体的にはなっていませんが、一度そういうことについての説明をしたいということのお話は返事はいただいております。

それと、一昨日ちょうど福井県の市長会がございまして、その中で事情をお話しし、こういう事案というのはそれぞれの全国どこの市町村へ行ってもこれから起こり得る、起こる可能性は否定できない事象でありますので、ぜひ市長会として取り上げていただいて、これは北信越市長会、そして全国市長会から国へ要望が出るんですけれども、そういうものを議題しても取り上げていただきましたので、国等に対して、またいろんな、例えば国としてどういう対応が取れるのか、また気象庁としてどういう対応が取れるのか、またテ

ントを持っていらっしゃる皆さん方がどのような対応を取るのか、そして実際にその運営をする皆さん方がどのような対応を取れるのか。運営の立場については、大体私ども先ほど言いましたように、情報をしっかり早目に把握をしてお知らせをするというようなことは分かってきましたけれども、現実問題とすると、やはり今の時代でありますので、ちゃんとした、しっかりとしたトップ情報なども早目につかめないのかというようなことも含めてお願いしてまいりますし、そうなりますと、前も言いましたけれども、私ども市独自で原因究明をしてというのなかなか、風洞実験から大変な実は作業になりますので、ぜひ国を動かしてこれをやっていただけるように最大の努力をしていきたいと思っています。

【記者】 新幹線のことをお聞きしたいんですけれども、今回、概算要求のところでは財源が確保されたらという文言であったんですけれども、敦賀市としてはコメントも出ましたけれども、あれでどうなのかというか、思いとかどうなのかと思ひまして。

【市長】 あのコメントで出させていただいたとおりでございます、県とスタンスは一緒でございます。何とか財源の見通しを立てていただいて、敦賀までの一括認可というのをかち取りたいという思いでいっぱいです。これからまた運動もありますけれども、その一言に尽きると思っています。

【記者】 それに関連してなんですけれども、駅舎とかは今後どういう感じで進んでいくんですか。

【市長】 駅舎のほうも私どももいろんなご意見ございまして、やはり57年たつ駅でありますので、駅自体が。それを機能性のいい便利なものに、それとバリアフリーという観点から、高齢者の方が増えてまいりますし、また体の不自由な皆さん方もそういう機関を利用して移動したいという皆さん方にとりますと、現の敦賀駅というのは非常に便利の実は悪い駅に間違いないわけにありますので。バリアフリー法がございまして、JRさんも22年までに駅舎をそういうところは直していかなければだめだということで、会社のほうも理解をいただいて取り組んでいただけるというふうに思っておりますが、そこで駅舎を全面的に直したほうがいいよという話もございまして、バリアフリーのリニューアルをしっかりとやって、また新幹線、確かに、もし今回仮に認可がおりませんと、恐らく四、五年は結論的に延びますから。そうしますと、これが15年後であったのが20年後ということにもなりますので、その20年をバリアフリーでもしうまく乗り切れるのであれば、それも一つの方法であるというようなことも思ひまして。

ただ基本的には、玄関口である駅は立派にしていくのも。これはあくまでもJRさんの所有のものでございますので、JRさんがどのような理解をしていただけるかというのが一つの大きなポイントでございます。そういうことも含めて、どうしたらいいのかなということは十分検討していきたいと思ひています。

【記者】 9月4日にリラ・ポートの募集期限ですけれども、どんな感じなんですか。

【企画政策部長】 8月5日から9月4日まで募集をかけておりますが、8月12日に応募者の説明会を行っております。このときには5社6名の参加がございました。そのほかに1社、申請書類を取りにきているところがございます。ただ、今現在の時点ではまだ1社も提出がございません。

【広報広聴課長】 それでは、ほかの方々の質問を受けたいと思ひます。

【記者】 2つともテント突風事故に関してなんですけれども、敦賀まつりで目で天気を確認するとおっしゃいましたけれども、どういった方が何人ぐらい、どういう形で天気を見張るのかということと、文部科学省に研究班に調査を依頼したというのは、何か具体的に、いついつまでにどんな調査をするというような明確な答えはいただいたのでしょうか。

【市長】 まず文部科学省のほうですけれども、訪問いたしまして事情を説明し、どのような原因究明なりそういう実験ができないかということをお話しましたけれども、具体的に何日までということはいいませんでしたし、実際どこへ、私どももこういうのは一体どこへどう頼んでいいかというのは分らんものですから、実は文部科学省にも何とか教えてくださいと、こういう場合にはどうしたらいいでしょうかと。あそこは研究機関を持っているものですから依頼をして。また再度、どうでしょうかということでお話を持って

いったわけでありませけれども、そういう中で一度そういういろんな気象、事象等についての説明、こういうことで起こり得るといような説明ということは今返事はいただいているんですが、まだ具体的に先ほど言いましたように、じゃ原因究明をここで、こういうところがやりましょうという実は返事をいただいているのが現状でございます。

それと、敦賀まつりのことに対しましては、これは各関係者、市なり敦賀まつり実行委員会もでございますので、そういうもの同士の中でも、特に目視の部分についてはお互い連絡をとりながら、ちょっと変だよといようなことについては十分把握をしていきたいなというふうに思っております。

これは空に対することでありますので、どなたも大体外へ出れば分かるような状況でありますから、そのあたり、また実行委員会の中でしっかり連絡をとっていききたいなというふうに思います。

【記者】 それで、ゴロゴロとかあからさまに天候が悪くなってきたら、最終的に中止、翌日に一部持ち越しとか、どういった判断があるのでしょうか。

【市長】 これは非常に難しい。私どもも、かつてもそうですけれども地区の運動会なり学校の運動会をやるときのあの天気心配だけは、皆さん方も恐らくいろんなところで経験したんじゃないかと思えますけれども。あとは気象情報というのがございますので、普通の雷がゴロゴロと鳴ったからすべてやめてしまうのかといいますと、それは非常に難しいところでもありますし、例えばゴルフ場、ああいうところだと落雷の関係もございませけれども、まちの中のイベントですと、祭りの中に人をめがけて落雷するということは余り聞いたこともないような状況でございますので。ある程度、雷なりが鳴れば雨の当たらないところに避難してくださいよという、そういうような対応はとれるのではないかなと思えますが、雷が鳴ったので全部イベントは中止ということはないと思えます。

【記者】 判断は、最終的に市の方が実行委員ですから、市でよろしいんですか。

【市長】 はい。

【記者】 今に関連してちょっとお伺いしたいんですけれども、例えば注意報が出たらどうかとか警報が出たら中止とか、福井地方气象台等の発表、情報とイベントの中止、可否というのを何か具体的に判断基準みたいなのはありますか。

【市長】 今のところはないというふうに思えます。皆さんもご承知だと思いますが、大雨洪水注意報なんていうのは何遍も実は出ています。本当に何回も出ておりますし、ついせんだっても大雨警報、雷警報も出ておりましたけれども、なかなか出たなというだけの状況が多いものですから、そのあたりは先ほど言いました目視的なものを取り入れていくしかないのかなというふうに思っています。だから本来ですとマニュアルがあつて、気象庁の発表された大雨洪水注意報があつたら野外でやるやつは中止するとか、警報が出たらこういうところは中止するというマニュアルを決めるのがいいのかなとも思うんですけれども、これはもうちょっと気象庁の予報システムがもう少しうまく。

昨日も天気予報では曇り、雨の予報なんですけれども、現実には晴れているとなりますと、例えば注意報が出ましたからといって大きなイベントを中止しますと、またお叱りを受けるのは目に見えているわけございませ。だからもう少しそういう精度が向上し、そういうものが出ることによって大体間違いないなということになれば、将来はマニュアルが組めると思うんですけれども、現時点ではなかなか注意報が出たので、やめたにこしたことはないかもしれないんですけれども、ちょっとその辺は微妙で難しいところだと思います。

【記者】 では、目視とかけあわせて柔軟に判断するということですね。

【市長】 そうですね。

本当はそういうものがしっかりできてしまえばいいんですけれども。分かりやすく、例えばそのとき晴れようが何しようが、できたじゃないかと言われても、例えばこれはマニュアルで、警報がこのとき発表されたのでうちは中止しましたと言って、またそういう理解を得られることになればいいんですけれども、限られた期間であり、限られた日にちであり、そういうところでイベントを皆さんそれぞれが組んでいくものですから。これは各町内のイベントであり、地区の運動会であり、いろんなところがそれにあわせてや

る必要もなってきますので、この辺は少し今のところは柔軟にいったほうがいいんじゃないかと思っています。

【記者】 先月の19日に市長さんが県知事さんのほうに来年度の重点要望事業の説明に行っておられたかと思うんですが、その中で西浦県道の要望をなされたと思うのですが、県のリアクションはどうだったでしょうか。

【市長】 今回も引き続き要望させていただきまして、県道の部分ですと、今の現にある立石までつながっている県道のカーブの多い部分でありますとか。県もずっと金ヶ崎のほうから少しずつですけれども改修もしていただいているところでありまして、引き続き例のトンネルを含めた改良をお願いしたいということで要望してまいりましたけれども、国でやったほうがいいんじゃないかなという話もございましたし。といいますのは、例の馬背峠のトンネルもつい先月、今月でしたか開通をしまして式典が行われたところでありまして、あれは要するに上のぐねぐねと曲がったところをトンネルを抜くことによって、かなりスムーズな流れになりますけれども、あれはご承知のとおり関西電力美浜3号機の事故を受けて、経済産業省が動いて極めて早い時期に。恐らく来年中には運用が開始されると思いますが、極めて早く動いたわけでありまして。

そういう意味を含めると、今回の立石等についても、やはりそういう災害のときのスムーズな避難ができる一つのところでありまして、国がやはりもっと全面的に出てやったらどうだというような話も出ておりましたが、私どもは基本的に県道でありますから、それは県が主導をとってひとつやっていたいただきたいということでお願いをしてきたところでございます。

それと、立石から白木へ抜ける全く道路の影も形もない部分でありますけれども、あれも県として調査も大体終わってきておりますので。あの部分、結構ぐねぐねの実は道路なんですね。あれもトンネルで抜いたほうが早いんじゃないですかというようなことの見解はお話はしておきましたけれども、これについても県とすれば、これをやはりやっていたいなという意向は感じられました。

【記者】 先週の金曜日に西川知事がもんじゅの再々延期に絡んで、原子力機構の組織体制を見直すべきだとおっしゃっていますけれども、それについて市長はどうお考えですか。

【市長】 確かに工程をたびたび変更というのはなかなか厳しいものがあるなというふうには思っておりますけれども、特にいろんな耐震の問題が出たり、温度計の追加の調査があったりということで、私は前も言いましたけれども、この工程変更については、より安全を確認するため、また安全になるものであれば仕方ないことでもありますし、そういうものを無視して前に進めるべきものではないというふうに思っておる一人でございますので、工程変更については止むを得ませんし、当然、安全に係ることをしっかりやってほしいというふうに思っております。

これは原子力機構という組織のことでありますので、組織がしっかりと自分たちで自覚をしてそういうことに取り組んでいただければいいというふうに思っています。

【記者】 ただ、耐震の話は柏崎の地震以降出てきた大きなことなんですが、ナトリウムの検出器みたいなものはできたときからついているわけで、そこら辺がぎりぎりになって出てきてばたばたやっているといるところは、問題を組織として抱えているのかなというふうに見受けられるんですが。

【市長】 そういう点については非常に私どもも、もっと早くそういうことが分かって、すかっとする形で臨んでほしいなという気持ちはあります。それ自体が組織云々というのが問題なのか、そのあたりについてははっきり分かりませんが、そういうことのないようなものになりつつあるのではなかろうかなという期待はいたしております。

【記者】 全然話変わるんですが、今日も朝、161号線で事故がありまして、4時間ぐらい止まって650世帯ぐらい停電したんですけれども。それから先日も同じような、何百メートルしか離れていない場所でもあったり、やっぱり161号線が、あそこで事故あったという、やっぱりいけないといけないかなと、そこでというだけで思ってしまうんですが、市として、あのまま放置しておくことは、国があそこで、けが人とか事故が起こってもいいと、もうあきらめているんじゃないかなというふうにも思うので、市として強く、これまでも

要望されていると思うんですけれども、何か考えられることはないですか。

【市長】 私どももあそこは前の豪雪のときも、結局あそこで実はトレーラーが滑って横になってしまって2日も3日も実は止まったんですね。平成8年か9年やったですかね。2日も3日も車の中ですから、職員の皆さん方がおにぎりとお茶と背負って歩いて行って皆さんにお渡ししたというような、そのような経験もあるんですけれども、結構事故が多いものですから。これは道路改良等でいろいろ国に対してもいろんな危険箇所ということ要望はしておりますけれども、基本的にあそこは本当はトンネルで抜ければ、こんなすかっとすることはないなというふうに思っているんです。しかし今、私どもの要望で出しているかという、まだ実は出ておりません。これは滋賀県とのいろんな調整もあるというふうに思いますので、そのあたりこれから県として滋賀県との調整も含めて、やはりこれだけ事故の多いカーブの多いところでもありますので、そういうことを含めて考えてほしいなということ一度上げていきたいなと思う。今日もまた事故のそれを見まして、夏でもあの状況ですから、これからまた冬場に向かっていって、結構消雪などもあそこは力を入れていただいておりますけれども、それでもあれだけのカーブになりますと事故も多いということ考えますと、そういうこともこれから要望等に入れていきたいなというふうに思っています。

ただ、私ども今、8号の例の大比田まで行くところのバイパスの建設等もお願いしておりますので、そこもやっていただかなくてはならんし、あそこもやはり事故のあるところでもありますから。どうしても私どもの地形というのは、三方を山に囲まれておる地形上、どうしてもそういうところを通過しないと来れないところでして、もう少し良いアクセスになればなという思いは持っておりますので、一度今ご指摘いただいたようなことも、どのような形で上げていけたらなということも考えたいと思います。やはり危険箇所というのは、あそこに限らず、なるだけ改良を早急にしてほしいと思います。

【記者】 大変細かくて恐縮なんですけれども、例の突風事故で崩れた藤棚は全部で幾つあるんですか。

【産業経済部政策幹】 1基でございます。——全部ですか。ちょっと待ってください。後でお答えします。

【市長】 壊れたのは1つ。ちょうどたまたまテントの後ろのところ、ばんといったやつだと思います。あと結構たくさんありますから。また後ほど。

【記者】 分かりました。

【記者】 テントの見舞金ですけれども、結局受け取ってもらえることになったんですか。

【市長】 いや、まだ、ちょうど9月の7日に訪問して、私もお参りもしたいと、四十九日前にお参りをしたいということもありまして訪問させていただくときに、お見舞金として持参をしたいということはお話ししておりますけれども、子どもたちのダンスの発表があったりいろんなことがあるので時間調整として、明日返事をいただけますし、これはあくまでもお見舞金でありますから。記事のほうには、これで済むとか済まないというような。そんなつもりは全くございません。これは最後の報告を待って、あくまでもお見舞いという気持ちの中で、それと仏壇に手を合わさせていただきたいという気持ちのことでありますので。決してそういうもので済むわけありませんし、また将来いろいろと調査、事件性の調査も含めてやっていただいておりますので、そういうものの結果を待って、しっかりと対応をしたいと思っております。

【記者】 四十九日の日にも、もう一度仏壇、何か行かれるのでしょうか。

【市長】 その前に。

【産業経済部政策幹】 先ほどの藤棚の基数でございますけれども、全部で8基でございます。そのうちの1基が破損したということでございます。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 ちょっと勉強不足で恐縮なんですけれども、先ほど港のところで、クレーンもできていませんしというお話だったんですけれども、結局クレーンができないと荷物をおろせないという状況が続くのでしょうか。クレーンは大体いつぐらいに完成になるのでしょうか。

【市長】 コンテナ専用のガントリークレーンというやつでありますけれども、これは2年後にはいいものができるというふうに思います。それ以外ですと、またいろんな積みおろしもできる手段はありますので。コンテナ専用のガントリークレーンの完成というのは2年後ぐらい、総合完成に合わせてできるということでもありますので。それ以外でいろんな積みおろしのやつも、ほかのやつでできますから。

【記者】 最初の話に戻って恐縮なんですけれども、小中学校の耐震ですけれども、もう少し具体的に何をどうするか教えていただけますか。

【教育長】 まだ耐震を施していない校舎が15棟残っております。これらをすべて診断をまずやりまして、それから後2年、できますなら文部科学省が発表しております補助金率のアップ、その期間に工事ができたらなと考えております。100%を今回のこれで目指していきたい。

【記者】 そうすると、これまで幾つ耐震を既に終えていらっしゃるのでしょうか。

【教育長】 数字的には、大野市が一番進んでおりまして79%ぐらいです。敦賀市が75.幾らで、今年度末には78%近くになります。従いまして、残り22%でしょうか、これを20年度、21年度、22年度の3年間で100%に持っていき、工事を終えたいと考えております。

【記者】 15棟というのは何校になりますか。

【教育委員会事務局長】 学校につきましては、小中合わせまして6校でございます。

【記者】 6校で15棟ということですか。

【教育委員会事務局長】 はい、そうでございます。

【記者】 もんじゅが来年2月に延びて、新幹線も延びましたけれども、多分来年2月といたら、もう予算の国会の審議の時期ですから、多分全部結論が出ていると思うんですが、こうなった状況でも、改めてちょっともんじゅと新幹線について聞きたいんですけれども。

【市長】 毎回もんじゅと新幹線というのは知らぬ間にペアになってしましまして、いろいろお話が出ておるんですけれども、僕は何度も言いますけれども、原子力発電所があってもなくても新幹線というのは絶対必要だというふうに認識をしておりますので、もんじゅがこうだからあだからということなしにして、ぜひ認可をいただきたいなという気持ちでいっぱいです。

【記者】 ただ、これまでの状況と違って、もんじゅは10月、新幹線は8月というのとはちょっと話が違うと思うんです。もんじゅの運転云々になるころには新幹線は既に結論が出ているという話で、市長は関係ないと言うのはよく分かるんですけれども、それでも全然状況に変化はないということですかね。話の絡みに変化はないということなんですか。

【市長】 と思います。今までセットみたいな扱いもされてきておりましたけれども、今おっしゃるとおりずれてきますから。とりわけ、もんじゅがこうだから新幹線はこうだよというようなことはないですし、今も全体的に話を聞いていますとそういう話は余り出ておりませんので、そういうことはないというふうに私は思っています。

【広報広聴課長】 定刻まであと一、二分ありますが、もうなければ、これにて9月の定例記者会見を終わらせていただきたいと思います。

【記者】 新幹線の話ですけれども、市長は敦賀までの延伸という話が出てきてから必要だというお話をされていらっしゃるんですが、そもそも敦賀に本当に必要なのか。これは敦賀じゃなくて福井県として敦賀まで必要だという認識を持たれているのか、敦賀市として必要だということなのか。何かやっぱり福井まで戻る、行ったりするのに新幹線、福井から考えると敦賀に向かう。敦賀としては大阪へ行くのも名古屋へ行くのも変わらない。敦賀のメリットを改めてあるのかなと時々、今敦賀に住んでいるので思うんですが。

【市長】 恐らく多くの市民の皆さん方もそう思っているんじゃないかと思うんですけれども、あくまでも敦賀までというのは一つの通過点ですから、将来やはり大阪にどういう形であろうとつないでいかなあかん。僕はいつも言っています持論で、ひげ線として大阪なり行くなり、あとは日本海側をずっと行くような新幹線を将来つくってほしいんですけれども。

そういう意味で、確かに敦賀に住んでいますと、例えば一般の皆さん方というのはそん

なに東京とか新幹線を利用することが少ないものですから。ただ、やはり敦賀の立地として多くの皆さんに来ていただく。企業の進出でありますとか、そういうことを考えると、やはり新幹線があって乗り換えなしで東京方面から敦賀に入ってくるのがメリットですよということで市民の皆さん方にお話はするんですが。そう言われれば、そういう意味ではあったほうがいいのかなというふうに言っていただきますけれども、自分たちが利用するという立場になると余り、今の時点でもそう遠くないものですから、そういうふう感じていらっしゃる方は多いように思います。

しかし先ほど言いましたように、やはりこちらへ来ていただく。企業を含め観光客を含めて来ていただくことを考えれば、やはり敦賀に早く新幹線が欲しいなと私は思っております。

【広報広聴課長】 ありがとうございます。

それでは予定の時間が参りましたので、これにて9月定例記者会見を終わらせていただきます。

午後2時30分 終了